

# 国民民主

KOKUMIN MINSHU PRESS

国民民主党 国民民主プレス 編集部

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-5-3 Nagatacho GRID 4F

TEL : 03-3593-6229 MAIL : info@new-kokumin.jp H P : new-kokumin.jp

こくみんみんしゅ  
**Press**

号外

2023年3月

【連絡先】国民民主党茨城県第5区総支部(浅野さとし事務所)

国会事務所

〒100-8981  
東京都千代田区永田町 2-2-1  
衆議院第一議員会館 406 号室  
TEL : 03-3508-7231  
FAX : 03-3508-3231

日立事務所

〒317-0071  
茨城県日立市鹿島町 1-11-13  
TEL : 0294-21-5522  
FAX : 0294-21-3014

公式サイト

<https://asanosatoshi.com/>



※撮影のためにマスクは外しています

衆議院議員

**浅野さとし**

高萩市長

**大部勝規**

2023年新春特別企画として、本年も大部勝規 高萩市長との特別対談を実施させていただきました。対談では、新型コロナウイルス感染症の対策、物価高騰対策、子ども・子育て世代への支援等に取り組んだ2022年を振り返り、今後のまちづくりの展望についての思いを語っていただきました。

## 2022年の振り返り

### ごみ処理施設の整備に力を入れた

**浅野** 昨年も国内外では様々な出来事や政界の動きがありましたが、一年を通じて、大部市長の印象に残っている出来事や、特に注力した施策、手応えのあった取り組み等があればご紹介いただけますか。

**大部** ロシアによるウクライナ侵攻をはじめとする大きな国際紛争、異常気象や物価高、新型コロナ変異株の蔓延など、昨年は多事多難な年でありました。本市にも様々な影響があり、経済的支援などに係るご要望も受けまし

た。これらは本市で安心して暮らしていきたいというご意思の表れですので、できる限りの対応をしてきたつもりです。ただし、そのための原資は必要であり、市としては事業の選択を迫られることとなりますので、各地域がそれぞれの地域特性に沿った住民サービスを継続的に提供するためには、国からの恒久的な財政措置が必要と考えます。

この一年、本市が特に力を入れてきた施策の一つはごみ処理施設の整備でしょうか。本市は県内で唯一自前のごみ処理施設を持たない自治体でしたが、国の循環型社会形成推進交付金活用と震災復興特別交付税を併せて活用できたことから北茨城市との広域ごみ処理施設の建設が可能となりました。新しいごみ処理施設は環境負荷が少なく、市の財政負担も軽減され、ごみ袋



の価格を下げることでその分を市民へ還元できるようになります。4月からの稼働を控え、施設外構やアクセス道路などの整備も最終段階に入っております。

**浅野** 長期化するコロナ禍の中で、本年も1月から春先頃まで食料品や生活必需品を中心に物価が上がる見通しもあるようです。引き続き、高萩市に住む皆さんの暮らしを支えるため大部市長とも連携を図らせていただきたいと思います。

## 新型コロナ対策について

### 新型コロナの扱いの見極めが今後の課題

**浅野** コロナ禍は4年目に入りました。市民へのワクチン接種も一定程度進み、県内環境としてもコロナ予防と感染時対策が定着している状態だと言えと思いますが、今後に向けてどのような課題意識を持たれていますか。

また、コロナ禍では大人だけでなく子ども達も我慢を続けてきています。学校行事の延期・中止などで友達と接する機会が減ったという声も聞きますが、コロナ禍でも子ども達がのびのびと成長するために、高萩市として行なっている事や考えていることがあれば教えてください。

**大部** 新型コロナ感染症法上の位置づけを、この春から季節性インフルエンザと同等の5類に移行するとの発表がありました。移行に伴ない様々な制限が緩和されるのでしょ

うが、一方で更なる感染拡大や医療のひっ迫を招きはしないかという懸念もあります。今後の新型コロナとの向き合い方により市の施策も変わってくると考えています。ワクチン接種の扱いも同様で、仮にインフルエンザ同様に任意で有料にするのであれば接種率は低下するでしょう。ウィズコロナへ向け、変異が進む新型コロナをどのように扱うべきか、その見極めが今後の課題だと思います。

おっしゃる通りコロナ禍により子どもたちの生活にはさまざまな制限が設けられています。その制限の中で学びの機会を確保するため、学校では基本的な感染防止対策を徹底しながら運動会や修学旅行などの主な学校行事を行ない、生涯学習分野でも民間団体と連携してデイキャンプやピザ作りなどのイベントを実施しています。

それでも我慢しているところが多々あるのでしょうか、昨年3年ぶりに開催できた夏まつりで子どもたちから「まつりができてうれしい、ありがとう」と声をかけられたことがありました。コロナ前にはなかったことです。今後、新型コロナウイルス感染症の扱いを踏まえて、更に子どもたちの活動メニューを検討していきたいと考えています。

**浅野** 昨年3年ぶりに開催した高萩まつりでは商店街を埋め尽くすほどの市民の皆さんが来場していたのが印象的でしたし、ダンスなどを披露した子ども達もとても頑張っていたのが印象的でした。感染症法上の類型の見直し議論はもちろんですが、市民生活を過度に委縮させないためには大部市長のリーダーシップは大変重要だと思います。今年もぜひ、市民の皆さんがたくさん



行事を楽しめるよう市長のご尽力に期待しています。

## 子ども・子育て世代への支援について

### 医療体制の確保 教育環境の整備が必要

**浅野** 昨年来、資源価格や物価が急上昇しています。4月以降は電気料金の値上げも予定されており、現在は多難の時代と言えそうですが、高萩市としてはどの様に地域経済を支えていきますか。

**大部** 物価高騰対策として、本市では主に地方創生臨時交付金を活用し、市民全体への生活支援のほか、本市経済を支える事業者への支援事業を進めてきました。具体的には全市民へのクーポン券配付や子育て世帯に対する給付金支給、学校給食費の保護者負担の抑制などです。また、事業者への支援として小規模事業者や農業者、交通インフラを支える交通事業者への給付金給付、高齢者や児童福祉施設への食材及び燃料高騰に対する支援も行なっております。このような物価高騰対策事業を立案するうえで念頭に置いたのは対象者と支援のタイミングであり、同時に支援対象者に偏りが生じないように留意しています。

原油価格や物価高騰の影響の先行きがまだ見通せないことから、今後も市民生活への支援をはじめ、経済活動への支援を継続していく必要があると考えています。浅野代議士からも新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の拡充や再配分を引続き国へ強く働きかけていただきたいと思います。

**浅野** わかりました。ぜひ連携させていただきます。電気料金の高騰対策については、今年の1月から電力事業者への燃料費補助制度がスタートし、一般的なご家庭では毎月の電気料金が約2割軽減されることとなります。春先頃までの対策となりますが、国に対しても地域経済や市民生活を底支えするための多様な支援メニューの整備を引続き求めていきたいと思っています。

## 物価高騰対策について

### 地方創成臨時交付金を活用し 支援する

**浅野** 茨城県内の各自治体では、近年、子どもや子育て世代への支援充実に努めていますが、現状を考えると、今後

更に踏み込んだ支援を行なう必要もあるのではないかと思います。最近では兵庫県明石市の「5つの無料化」政策※などの成功例もありますが、大部市長は今後の高萩市の子ども・子育て政策をどうしていくべきだとお考えでしょうか。

※兵庫県明石市HP参照

<https://www.city.akashi.lg.jp/shise/koho/citysales/kosodate/index.html>



**大部** 私が平成30年の市長選に立候補した際の公約の一つが子育て支援の拡充でした。具体策として挙げた学校給食費や保育料の軽減化、教育環境の向上、医療福祉費支給制度の拡大についてはすべて一期目で実現することができましたが、その中で実感したのは、住民がつつがなく日常生活を送ることができるまちを作ることまた有効な子育て支援策であるということです。安心して子どもを産み育てるためには医療体制の確保と教育環境の整備が必要ですから、そこを進めなければなりません。現在日立医療圏において産科がある病院は日立総合病院と高萩協同病院の2院で、どちらかが立ち行かなくなると地域での出産が難しくなります。本市は近隣市や医療機関、大学などとの話し合いにより地域医療の維持に努めています。また、将来の人口動態を推測し、適正な規模の公立学校の配置を図るため、有識者や学校関係者、保護者、地域の代表者などによる高萩市立小中学校適正規模適正配置検討委員会で持続可能な教育環境の構築について協議を重ねているところです。

これからも引き続き地域に必要な支援のあり方を検討し、子育て世帯にできるだけ配慮した政策事業を進めます。

**浅野** この政策分野は現在の様な多難の時代において特に重要だと思います。コロナ禍で仕事を失った方や、失うところまでいかなくとも収入水準が低下したご家庭は多くあります。未来を担う子ども達のためにも、ぜひ更なるご奮闘をお願いいたします。

## 経済振興策について

### 豊かな自然を活かし 交流人口を増やす

**浅野** 現在、政府や各自治体は、コロナ禍や物価高対策に全力を挙げていますが、将来を見据えた渋滞緩和などのインフラ構築、まちなかの賑わい創出、観光・レジャー施設の整備などの経済振興策も今こそ重要だと思いますが、高萩市の取組み状況や今後に向けた大部市長の思いなどをぜひお聞かせください。



**大部** もともと本市は炭鉱や林業を主産業として発展したまちです。産業が変わり、社会環境が変わり、市民ニーズも多様化して、それぞれに応える形で現在の高萩市の形となりましたが、今後は人口減少や高齢化社会を踏まえ、誰もが健康で快適に生活できる環境の実現をめざし、財政面及び経済面において持続可能なまちづくりを進めていくべきと考えています。例えば、医療や福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地する中、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできれば便利だろうと思うのです。福祉や交通も含めて都市構想を見直し、コンパクト・プラス・ネットワークの考えで今ある資源を有効活用することが重要です。

経済振興策としては、豊かな自然を有する本市では令和元年度から小山ダムの「はぎビレッジ」を中心に山間部の自然資源を活用したアウトドア事業を推進しています。昨年は海岸部を活用した期間限定のイベント「渚のサウナビレッジ」を開催、最近話題になっている車中泊メニューも取り入れて夏以外の海への集客を図りました。外国籍のお客様も見えて手ごたえを感じているところです。今後は紅葉が美しい花貫溪谷についても計画的に利活用を進め、四季を通じて交流人口を増やす方を積極的に進めてまいります。

**浅野** 私も以前から言っていることなのですが、高萩市の強みは、高萩海岸や花貫溪谷など県内トップクラスの美しい自然環境があるだけでなく、特急列車が停まる高萩駅や高萩インターチェンジ、それらをほぼ一直線上につなぐ県道111号線が整備されていて、市内の回遊性が非常に高い点

だと思っています。ぜひこれら「点と点」が「線」でつながるような市内交通を実現していきたいと思っています。

## 市内交通について

### 「のるる」と市交通事業者の強みを活かしていく

**浅野** 高萩市では、人工知能技術を活用した路線バス「My Ride のるる」の運用を昨年からは開始して他の自治体からの注目を集めました。

人口減少や過疎化が進む地域では、公共交通網の維持に課題を抱えている自治体も多くありますが、「のるる」の運用状況や今後の市内交通に関する大部市長のお考えがあればお聞かせください。

**大部** 以前お話しした時には実証運行中だった「My Ride のるる」は令和4年10月から本格運行を開始しました。「のるる」前の定時定路線バスの利用者数は1日当たり81.7人でしたが、本格運行移行月の「のるる」利用者数は1日当たり106.7人であり、新たなバス利用者の確保につながったものと考えています。

「のるる」は電話でもスマートフォンでも呼び出すことができますが、電話利用の場合は事業者側がオペレーターを設置する必要があり、利用者側にとってもリアルタイムで「のるる」の運行状況が確認できないといったデメリットがあります。言い換えれば「のるる」





導入効果を最大限発揮するためにはスマートフォンアプリの利用拡大が有効ということになります。このような背景を踏まえ、本市では昨年9月から65歳以上を対象にスマートフォン購入助成制度を始め、今までに約100人の市民へ助成を行なっています。

運行に伴ない「のるる」の課題も見えてきました。例えば「のるる」は路線バスの利用者が少ない日中に呼び出し型として走行するものですが、路線バスの車両をそのまま使用するため細い路地での運行ができません。この点については今後タクシー事業者と協議し、解決に向けて調整できればと考えています。また、「のるる」は移動途中でルートに変更が生じることがあり、目的地への到着時間の正確な予測は困難です。ダイヤが読める従来の定時定路線バスには「のるる」にはないメリットがありますので、市としては交通事業者がそれぞれ持つ強みを活かした公共交通施策が展開できればと考えています。

**浅野** おっしゃるように高齢者や障害のある方のデジタルデバイドの問題は、まちづくりを進めていく上でかならずぶつかる課題です。国会においてもデジタルデバイドの解消にむけて、他自治体の先行事例なども横展開しながら、効果的に解消につなげていけるよう私も取組ませていただきます。

## 2023年の見通し

### 豊かさを実感できる持続可能な地域づくりを進めていく

**浅野** 最後に、2023年の高萩市の展望や、大部市長ご自身の今年の抱負についてお聞かせください。

**大部** これまで広域ごみ処理施設整備をはじめ、赤浜地区工業団地への企業誘致、公立認定こども園の設立、My Rideのるるやデマンドタクシー等の公共交通網再構築、本市をアウトドアのまち高萩とした観光資源の利活用、新型コロナウイルス感染症対策など、市職員はもちろん、関係機関や市民の皆様とともに喫緊の課題に全力で取り組んでまいりました。昨年もこの対談で申し上げましたが、これまでの改革や課題解決により、高萩市は着実に前進していると実感しております。

残念なことですが、地域の声が聞き入れられていない、情報がよく伝わってこないなどというご意見が寄せられることも多々あります。

役所側では市報やホームページ、メディアなどからの情報発信をできるだけ丁寧に行なっているところですが、市民にそれが届いていないのなら行政が市民生活の現場を理解できていないこととなります。

このようなことから、市民の声を聴くために5年間続

けてきた市長室開放事業を今年度で取りやめ、来年度からは市民に来ていただくのではなく、こちらから地域へ伺う出張懇談会事業へ移行することを考えております。市政経過報告やこれからのまちづくりについて地域の課題を説明し、住民のご意見をお聞かせいただくため、各地区の集会所などを会場とした行政懇談会を実施したいと思っております。

引続き、本市がめざす都市将来像「地域力が笑顔をはぐくむまち高萩」の実現に向けて、市民が豊かさを実感できる持続可能な地域づくりを、進めてまいりたいと考えております。

浅野代議士も現場主義を第一としていると聞いております。これからも国政の現場から高萩市へのご理解と

お力添えをよろしくお願いたします。

**浅野** 行政と住民とのコミュニケーションの活性化について大部市長ご自身が地域に出向くというのは非常に素晴らしいことだと思います。私も初当選以来、地域に足を運び、市民の皆さんの声を直接伺うことを大切にしてきましたが、本年は我々ともに現場主義を実践できる年となることを大いに期待いたします。本日はありがとうございました。

## 浅野さとし後援会は、**新規会員を募集中!**

浅野さとしの政治活動は、皆さまのお力によって支えられています。

広報物の発送、国政報告会のご案内をしております。皆さまのご入会をお待ちしております。



←ご入会はこちらから

— 1,200円/年より

## 国会議事堂を見学しませんか?

- 団体・個人を問わず見学を歓迎します
- 土日の見学もご相談に応じます
- 平日に限り、議員会館内の食堂利用可（予約制）
- 所用時間は、約1時間・バス無料駐車場有り

浅野さとし事務所オリジナルデジタルパンフレットはこちらのURLよりご覧ください。



## 浅野さとし

### プロフィール

#### 《略歴》

- 1982年9月生まれ
- 2005年3月 青山学院大学工学部卒
- 2007年3月 青山学院大学大学院 工学部研究科修了(理学修士)
- 2007年4月 株式会社日立製作所 日立研究所入社
- 2013年8月 日立製作所労働組合研究所支部執行委員
- 2015年9月 衆議院議員大畠章宏秘書
- 2017年10月 衆議院議員初当選(第48回衆議院選挙)
- 2021年10月 衆議院議員2期目当選(第49回衆議院選挙)



## 各種SNSで

### 浅野さとしの最新情報発信中!!



<LINE>



<Twitter>

地域の情報や話題のニュースについてわかりやすく解説する「浅野さとし公式チャンネル」はコチラから!



<YouTube>

**要チェック!!**

Facebook・Instagramもチェック!

## 日立事務所

〒317-0071 茨城県日立市鹿島町 1-11-13  
友愛ビル 1階  
TEL 0294-21-5522  
FAX 0294-21-3014  
Mail: asano@asano-office.net

ご意見・ご要望

## 国会事務所

〒100-8981 東京都千代田区永田町 2-2-1  
衆議院第一議員会館 406号室  
TEL 03-3508-7231  
FAX 03-3508-3231  
Mail: g17398@shugiin.go.jp